的に孤立した状況のなかで、 アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。 三三年三月、 国際連盟を脱退した日本は、 日本仏教の関係者たちは、 やがて出口の見えない戦争へと突き進んでいった。 欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、

検証が求められているといえよう。いま、日本の民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上で、これらの事業のの活動も多様な側面を有していた。とは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、そとは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、そその事業は、外務省や文部省、軍部からの支援を受け、基本的に国策に順応する方向性をもっていたこ

そのための必要不可欠な文献を収録したものである。

編集復刻版

●龍谷大学アジア仏教文化研究叢書5

盟聯會年青教佛本日全

全職發達史料預支給官

三 第 後 因利的) 登録節六銭総合に用磨して **委日本の背中部後に辞る**・

The Young Buddhist.

吉永進一・大澤広嗣 中西直樹 龍谷大学アジア仏教文化研究センター 「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班 (代表)・林

赤松徹眞・楠 淳證

不二出版

第Ⅳ期

青年仏徒 全日本仏教青年会連盟機関誌 全2巻

体裁=B5判・上製・総782頁

刊行=2018年2月 定価=本体46、000円+税

『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』推薦文

赤松徹眞(龍谷大学前学長・本願寺史料研究所所長

部教授の中西直樹氏である。関誌『青年仏徒』(全二巻)を刊行する計画で、編集代表は龍谷大学文学第三期に中国仏教との提携(全二巻)、第四期に全日本仏教青年会連盟機青年会大会関係資料(全二巻)、第二期に南方仏教圏との交流(全三巻)、『資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流』は、第一期に汎太平洋仏教

日本仏教の国際化を考える上でも意義深いと言えよう。その実態を検証していくことは、民間レベルの国際交流のあり方を問い、和九)年に東京で開催された。戦前の国際大会として大規模なものであり、第一回大会が一九三〇(昭和五)年にハワイで、第二回大会が一九三四(昭第一回大会が一九三〇(昭和五)年にハワイで、第二回大会が一九三四(昭第一、第一期刊行の資料は、戦前に仏教者が開催した国際大会であるさて、第一期刊行の資料は、戦前に仏教者が開催した国際大会である

などが収録されている。 第二期収録の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会か第二期収録の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会の設立にの割刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立にら創刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立にら創刊された。創刊号には、会長井上哲次郎の「国際仏教協会の設立に第二期収録の『海外仏教事情』は、一九三四年八月に国際仏教協会か

事情』も収録されている。
・の交流を知る上で欠かせない『日華仏教』『支那宗教事情』『東亜宗教の情報交換を記した貴重な資料である。このほか第三期には、中国仏教の情報交換を記した貴重な資料である。このほか第三期には、中国仏教の情報局から創刊された。全日本仏教青年会連盟の一セクションであ仏教通報局から創刊された。全日本仏教青年会連盟の一セクションであ第三期収録の『国際仏教通報』は、一九三五(昭和一○)年四月に国際

国際交流にも尽くした情報を知る上で欠かせない資料である。れたことが確認できる。戦時下で、各宗派の仏教青年会が大同団結し、昭和一一年七月に発刊され、昭和一八年発行の第八巻第二号まで刊行さ第四期収録の『青年仏徒』は、全日本仏教青年会連盟の機関誌であり、

資料集は価値あるものと考えられる。

李資料集は価値あるものと考えられる。

本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、本資料集は、十五年戦争下で日本が「大東亜共栄圏」を構想するなか、

龍谷大学アジア仏教文化研究叢書 刊行の辞

の「龍谷大学」となりました。
仏教専門学校、仏教大学と名称を変更し、大正十一年(一九二二)に今学制の改革が行われ、学寮も大教校と名を変え、さらに真宗学庠、大学林、設された「学寮」を淵源とする大学です。その後、明治維新を迎えると設された「学寮」を淵源とする大学です。その後、明治維新を迎えると。

傘下にある研究機関です。 傘下にある研究機関です。 な一は、そのような意図のもと設立された世界仏教文化研究センターの となるべき新たな機関として、本学に「龍谷大学世界仏教文 で流の拠点となるべき新たな機関として、本学に「龍谷大学世界仏教文 学の有する最新の研究成果を国内外に発信するとともに仏教研究の国際 学の間、三百七十有余年もの長きにわたって仏教の研鑽が進められ、

~平成三十一年度)を申請し、採択されました。社会における課題と展望―」と題する研究プロジェクト(平成二十七年度究基盤形成支援事業」に、「日本仏教の通時的・共時的研究―多文化共生アジア仏教文化研究センターは、文科省の推進する「私立大学戦略的研世界仏教文化研究センターが設立されるにあたって、その傘下にある

本研究プロジェクトは、龍谷大学が三百七十有余年にわたって研鑽しるとになりました。 本研究プロジェクトでは通時的研究がループ(ユニットA「現代日本仏教の社会性・公益性」、ユニットA「日本仏教の形態と展望するものです。このような研究のあり方を有機的に進めるため、本研究プロジェクトでは通時的研究がループ(ユニットA「日本仏教の形本研究プロジェクトでは通時的研究がループ(ユニットA「日本仏教の形本研究プロジェクトでは通時的とらえるとともに、日本仏教が直面する世界的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する世界的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する世界的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する世界的視野から通時的共時的にとらえるとともに、日本仏教が直面する世界的視野から通時的共時的に追究し、会様の日本仏教の形でプロジェクトは、龍谷大学が三百七十有余年にわたって研鑽し本研究プロジェクトは、龍谷大学が三百七十有余年にわたって研鑽し

テーマとして国内外に発信する諸成果に、ご期待いただければ幸いです。研究センターの傘下にあるアジア仏教文化研究センターが、日本仏教をジア仏教文化研究叢書」の第五号となります。今後とも、世界仏教文化の成果の一つであり、第Ⅲ期「中国仏教との提携」に次ぐ「龍谷大学ア本仏教青年会連盟機関誌『青年仏徒』」は、右のような研究プロジェクトこのたび刊行される『戦時下「日本仏教」の国際交流』第Ⅳ期「全日

僻 青 通

東京府部青聯盟

東京府佛管聯盟では女子部管聯盟と共同主 一花まつりのター

値しを終つた。 を加へ又多数の來質出席して延大に此の夕の 竹下全職後振の下に、四月七日午後五時より 願号に築る部下青年份徒に友邦港支の習琴生 恒例の「花まつりの夕」を撮した。 先づ第一部は主帯近窓隆度氏の可食で開食 この日行柄の雨天にも拘らず、食器築地本

が行はれ、太子聯盟各国體の献花、府稼、女 顕参館書僧山顕総導新一山出住にて降製法製 を発節し、次いで府職理事長の開舎の挨拶が 閉ち、起念鱗欲に移つた。 子群、金聯、泰賓の各代競燈閣雷を以て式を 長久、難彦者英郷に臨謝の監轄を捧げて落除。 あつて、一同起立、玉盤安穏、皇軍将士の武運 せられ、府職母奪長長問題儒氏築師三歸依文 多年ピルマにあつて活躍せられ目下野朝路 それより花まつりの夕法様に入り、発地本

> 話に花が殴いた。 本人倒から数氏起つてこの夕を恭ぎ湿々の窓 添り最も有益なる勝減を聞いて後、特製の稿 要の熱烈なる麒麟と慇懃談があり、類いて日 られ、先づ出席老の感話で、満支雨園等年代 遊料理の悪機をおにして第一部を終つた。 京中のラングーン領導金子學治氏を特許して 「佛数国ビルマの近情」について一時間餘に 第二部は常数理事緊谷医暴氏の司會で始め

述べられ、一同四弘營殿文を登開して熊沙祖 なし平常潜のまゝの察問「喝」と歴する時局的 影氏の陣中観察機があり、次に之は変数選及 佛欲耐があつて、含質何れも大に盛嘆した。 最後に府職長韓国家長によつて弱會の際が

総徴「経緯降限の窓鑑」を纏き、宮部正氏の **含のもとに三谿依氏、鉄路の後精闘盟事長の** 展佛青龍では東蘇木川で開いた。成嶽理事司 代歌節仰あり一同观察に引版を終凝免順氏の 「中支税終談」に一層現地認識を深め十時感 觀察の姿、釋奪吟罷會を三月十八日夜名古

祝袒に解散した。 微と趣強」を課題とし、韓道、キリスト致、 蔵むられてゐるが、 去る四月十六日夜は「佛 つのテーマを中心に若い俗なの熱心な研究が 衛歌座藝會は毎月強海町長期寺で開き、一 ◆ 徐 被 研 宛 亩

京したばかりの從軍技器員で退骸家の松本器

徴いて清異として、中支戦線の慰問から贈

を初め二十七氏を推奪、位頭し病院當局と發

重大時局下の第九回全聯總會

楽る七月廿五。廿六・廿七日 比叡山上に開催-

九回

全

聯

總 會 準 備

裕し引行を微勝して発定とある。 ◇職 総 昭 田 金

哲學、文配等の角度より確究を進め最後に動

全日本佛教青年會聯盟總會規定

第二條 組 第一項 總會の組織を左の如く定む

第一部會 主として储青の運動方針を扱ふ、例へば佛教精神、 指導精神、佛教徒の教格、等々)

第二部台 主として佛青の組織問題を扱ふ、例へば制度、組織 第三部會 主として俳書の社會活動に履する問題を扱ふ(経會 ○擴大張化、經營管理、專業、等々)

問題、思想問題、社會審総、等々)

第七條 經

翼

第二項 用催地よ

聯盟費受領報告

日本大學佛教青年會

東京府明治大學佛教青年會

吉田 岩本

喜久

東京眞宗婚入會

梅槟佛教青年會

第三項 酷業は諸梁用紙(事務局より交附)に認むるものとす

第一項 總會費として出席者一名に任金管関也を前納するものと

政内に続いら倫康が下されて図る有販院は鬼 第六條 圖露提出 第二項 提出締切は開會日の二十日以前とす。提出先は事務局宛 第一項 踏業は一回體一階窓とす L To

代表者には失々代表微なを支附すの代表飲取を個用せざる者

は入場するを得す

おするものに誤る 真記長 若手名 若干名

第八條 德 路者 るべし」

識が出まして明年夏決行することになりました、つきましては

から他事乍ら御放慮下さいるせ

本會もお蔭様にて潑剤として青年指導の任務を果して居ります 日増しに暑さ酸しく相成りまする折柄御清榮の段賀し奉ります

布哇の青年佛徒より

せぬので御遠慮なき御注意を承つて具體的な日程等作製いたし 種々御後援にあづからねばこの壯行の成功を見ることが出來ま さて去る五月の本會定期理事會に於て日本見學團組織に關する

尤も當方で考へて居ります方針は次の通りであります

たいと思つて居ります

第一項 総會の俗 第四項 希望によ **炸三項** 宿泊費、 前とす 交解とす

宮城縣

見談會

石川縣

武藏野女子學院黎紅命 東京眞理佛教青年會

石川女子佛教青年會

昭和十三年度分

昭和十四年六月

第二項 傍聴者は

東京府 石川縣

明治大趣錦歌青年會

数賀縣

マハヤナ佛教青年會 正光告佛教青年會 金裸佛教育年會 金陽女子佛教青年會

術檀佛教青年會

朝鮮 兵庫縣

東京資宗婦入倉

婦人其在會佛教青年會 佛教女子青年會 寬永寺佛教青年會 大正大學佛教青年會

> 京城街科醫縣惠門學後佛教青年命 京城縣都專門學校佛敷青年愈

京城高等工業學校佛教育年會 京城法學專門學校佛教青年台

昭和十五年度分

京城醫學專門學校佛教青年會 京城高等商縣學校仍敢青年舍 とす

同间间间间 東京府 宮城縣 昭和十四年度分 小岩佛教育年會 伯泰術擅佛教青年會 嗣通佛教青年會 仙豪大谷婦人會 千代田女子青年會 育口高女同您會

右様の矢第でありますから何分よろしく願ひ上げます

一、引率者として大巴主事を同行せしむること

一、遊覧よりも生きた日本の見學に重點をおくこと

、時節柄布哇開係者よりの飲食等の饗應を解退すること

一、團體行動四週間以內

一、明年六月上旬田發八月下旬歸布

一九三九年七月六日

哇

佛教 名譽理事長

年 丸口盒 本羽 正義 二教

事

曹洞宗青年會瑞思 宫城縣見旗會 理事員擔金受領報告

石川縣女子佛教青年會 昭和十三年度分 昭和十四年六月

見與佛教青年會 H E

サンガ・アソカ

日ノ出高女例教青年會

全日本佛青聯盟御中

英 秀雲 取響

兵庫縣大鄉會

見真佛教青年會

京城帝國大二佛教青年會

同 吉田高女同窓會 宮城縣仙臺大谷婦入會 石川縣金器女子佛教青年會 **東京府小島佛教青年會** サンガ・アンカ 昭和十四年度分 **代藏野女于學院紫紅會** 日本大學佛教青年會 大谷鼠青音 曹青聯盟 千代田女子青年會 問酒佛教青年會 仙來稱檀佛教青年會 東京鼠理佛教青年會 華關佛教青年會 佛教女子青年會 好人共生實佛教告年會 筑永寺佛教青年會 大正大學佛教青年會 票阿糠維伊濱小波 與乙式 概 金 丸 拼 金 丸 拼 金 丸 拼 金 丸 拼 音 版 名 東 野 本 漫 身 部 版 名 東 野 本 漫 身 部 版 名 東 等 次 小 冽 乔 智 壁 山 土 并 法 选 嫌 已 光 逸 嫌 已 光 影 难 世 十 子 中 六 川 石原 德純

篡四係 经加申込 第二項 申込は公日本佛教青年台聯盟郡務局宛になすものとす 開倉日の二十日以前とす 第一項 申込は正式交響(事務品より交附)による。申込締切は

全聯の機構並に事業計畫の全般を審議決定すべき年一度の

り、更に十月初旬の常済座區會に於て圧機開催が確認された は、昨年六月下旬の全回理事會で近畿地方で開くとの申合る 事の一である。本年度の總會即ち第九回總會の開催地に就て 総會をいつ何處で開催するかは、全加盟團體がもつ重大関心

る要あり、從來四 にのである。「時局 が掲げられた以上 とした總金期日は 本文化の母胎をな にふさはしい總會 一次、すべての郷

提供の行を了水されたので、準備委員會を構成して具體的準 系の樹立を目指す總會本來の使命遷成のためには會朝の延長 七月下旬に繰下げられること」なつたのである。更に七月の **種々の便宜を計られ、延暦寺當局も答別の御好意を以て會場** 至る三日間としたのである。幸に臨入環事長は天台宗の方で が経對的に必要であるとの立前から七月廿五日より廿七日に て重大時局下に避すべき踏方針を充分に檢討し、以て實踐體 本位の総會を「非常時型の総會」に鑄直すためで、佛青とし 根本的理由は從來ともすればお祭殿ぎになり勝ちだつた大會 と雖も華氏七十五度以上に昇ら以山上の鎮須を滿喫して頂く 酷器を押して全國から定せ姿ぜられる佛青會長騰君に、盛夏 ためには、金朋を延旻することが必要であるが、金期延旻の

中西直樹・近藤俊太郎 監修

令知会雑誌

全
7
巻

創刊した。令知会は当時の代表的な仏教結社のひとつで 代を迎えた。そうした仏教改革の気風の胎動として、明 ちの危機感を背景に、仏教界は明治二○年代に改革の時 的位置にあるといえる。 あり、『令知会雑誌』はその後の仏教系メディアの先駆 会を結成し、明治一七年四月に機関誌『令知会雑誌』を か、島地黙雷、日下痴龍、吉谷覚寿、多田賢住らは令知 治一○年代後半から僧侶による結社活動が活発化するな 西洋化とそれに伴うキリスト教の進出に対する僧侶た

収録=第1号~第95号(明治17年~25年)

推薦=大谷栄

体裁=A4判・上製・総約3、030頁

定価=本体175、000円+税

中西直樹・近藤俊太郎 編著/中川洋子 執筆

令知会と明治仏教

文集である。 知られざる明治初期・中期の仏教界の様子を探る解題論 本書は令知会機関誌『令知会雑誌』を研究の対象とし、

体裁=A5判・上製・200頁

定価=本体2、700円+税

中西直樹 編・解題

仏教海外開教史資料集成

検討するための、必要不可欠な資料集である 開教関係の記録であり、仏教教団の海外の現状と歴史を 本資料集は、ハワイ・北米・南米における膨大な仏教

推薦=大村英昭・坂口満宏

〈ハワイ編〉全6巻

定価=本体120、000円+税 体裁=A5判・上製・総3、642頁

〈北米編〉全6巻

体裁=A5判・上製・総3、372頁

定価=本体120、000円+税

〈南米編〉全3巻

体裁=B5判·A5判·上製·総1、526頁

定価=本体60、000円+税

中西直樹 著

仏教海外開教史の研究

南米編)』に収録した解題と収録内容一覧を一冊にまと めたものである。 本書は『仏教海外開教史資料集成(ハワイ編・北米編・

定価=本体2、000円+税 体裁=A5判・並製・120頁

菊池正治・髙石史人・中西直樹

戦前期仏教社会事業資料集成

全13巻

福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料と 理し、収録した。戦前期仏教社会事業の軌跡を、国家目 関の発行した社会事業の要覧・便覧・報告書等を収集整 浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団関係機 して提供する。 的遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教 る。本資料集成では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、 設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼ した役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が 明治末から大正・昭和戦前期、仏教が社会事業に果た

体裁=A5判・上製・総7、556頁 定価=本体334、000円+税 推薦 = 長谷川匡俊・室田保夫

中西直樹・髙石史人・菊池正治

戦前期仏教社会事業の研究

題と収録内容を一冊にまとめたものである 本書は『戦前期仏教社会事業資料集成』に収録した解

定価=本体2、500円+税 体裁=A5判・上製・168頁

東 H は 東 噩 0 手 VZ 於 7

日泰青年佛教徒親善大會に際して

理 大日本佛教青年會聯盟 事長 安

正

純

私はこゝに、簡單に、本日、日泰佛敦青华淵善大會を聞ことは、疑ひのない事實であります。

催しました、その趣旨に就て御話をいたします。 抑々日本は佛教國であり、泰國も亦佛教國であります。

であります。 思ふれ、宗教的思想、宗教的民俗、宗

りますが、同じ数組の郷貸を率する佛教園民たることは同 日本の佛教は北方佛教であり、泰國の佛教は南方佛教であ

此の經濟關係の外に、佛教といる精神的關係に於て、相互 易の經濟的關係のあつたことは、風に人る所でありますが

日本と恋國との關係については、古き歴史を有し産業交

32

の連絡があつたことを忘れてはならないのであります。即

が日本の思想、文化、風俗、習慣に偉大な ました。爾來千三百年其間盛衰消長はあ 太子の政教一致の國策に依て、佛教は続 つてもよい位であり、日本に於ても、亦は のは、民族の國結と發展とに甚大の關係 ります。此の點に於ては、泰因は、佛教

H 泰 親 善 佛 敎 大

並に大日本佛教會共同主催 大日本佛教青年會聯盟

より、東京日比谷の公會堂に於て行 日泰親善の功勞者報恩法會並に青年 佛教青年會聯盟の共同主催にかゝる ふ趣旨の下に大日本佛教会と大日本 確立の大衆完遂に協力貢献せんとい 親善盟契を鞏固にし以て東亞共榮圏 み佛陀の大精神を顕揚し益々兩國の 佛教徒交数大會は五月五日午後一時 日泰兩國の歴史的宗教的意義に鑑

相、橋田文相、泰國公使ビヤシー 年の昔佛骨拳迎の正使として親し セナ氏大久保東京市長らの弔酔が といふ藤紫の紫網五條に威簑を正 主大谷光演氏はその當時満用した を排げ奏樂と共に今を遡る三十餘 教會會長木邊孝慈氏恭しく敬白文 して出座、護経回向を修し松岡外 く選組に渡つた大谷本願寺の前法

大政翼赞會東華局庶務部長縣澤級雄 て左の如き宣言決議を滿場一致可決 拶の交換を經て長井眞琴博士によつ 日高女伊藤充子さんなどの力强き検

佛

青

通

信

聖德太子祭舉行 宣戰大詔奉戴式並

祭は、籍政警報設令下緊張せる三月十四日午

本聯盟主催の宣覧大器容成式並に恐線太子

唱で一四般若心經を讀誦して、武を閉ちた。 したる後後草寺貫主火森苑園大僧正の十七條 引題を、聡然太子祭に移つた。 長恭しく宣戦の大語を李融して、式を丁り 常任理事司會の下に附式し、國民儀禮を行ひ 泰安し、簡素森服なる莊殿にて定期、小笠原 朝野の諸名士並に佛管會員約六十名影集して 後三時より、劉川區永田町山王ホテルに於て 憲法衆讃があつて、次いで同本賞玉老師の首 たる後、彦會者一興起立敬瞻裡に、安藤理事 極めて能崩盛火に擧行せられた。 それより次の知く記念器演を行つた。 先づ、安藤理事長一同を代表して献香禮拜 との日、會場には大國族の前に太子傳像を 爾氏の熱辯を領職し、午後五時一旦休憩し 一、整線太子と日本文化 一、宣戦大韶を恣難して 加藤 咄堂

鑑を共にし、安藤 理事長の挨拶の後、テーブ て、懇談舎に入る。 ル・スピーチがあり、午後八時半盛會感激程 午後六時より席を大食堂に移して、一同晚

に閉合した。 志田慈道、口松學童、小笠原義排、松本智 武內緊明、川村君枝、近藤玄定、製道慶中 伯統一、中野貨稅、常盤大足、竹內蒸兵、 **義年、福原俊北、西山政発、廣瀬又六、岡** 太郎、柳原雍光、酒非日假、椎尾藓匡、西 上西真證、副爲八十六、石坂豐一、松本勧 河原遊藏、安縣正純、加滕晴堂、大裝亮順 因に當品愈會の諸氏は次の知し。 春枝、川村忠三郎、古川礁悟、真柄ি子、 城、蜂谷惠晃、廣野義光、栗原富士子、祇 題、平野義一、佐藤智孝、國際佛教協會、 立花後道、平賢孝、原口初太邱、虞溪蒼空 菅原洞禪、中山理々、吉材賞練、秋庭正器 朝倉好、土岐善盛、由木隆定、加盛精神、 紀、百日木智璉、後歇棲道、木戸崩觀、佐 如是羯、稽野毛利荣、長谷川良信、木村目 三輪数一、中村法隆、武司豐四郎、長谷川 諸問存、芝田徹心、下村壽一、水野穆晓、 本貫玉、石丸梧平、倉元要一、堀內良平、 聯盟

瑶 事

員會に提出防災することに決定した。 約中改正の件は保留とし、何れも決項の許騰 理事會を開催、昭和十六年度庶務報告、同決 **河時に事業計畫に関し協議した。荷職定の規** 算報告を行ひ、昭和十七年度發算案を網成し 三月十四日麹町區永田町山王ホテルに於て

評議

告があり、昭和十七年度職算案を小笠原常任 備、安陸母事長の挨拶に矢いで、小笠原常任 祭は總て強算項目中に記載の如く決定した。 班事が説明して原案通り可決した。李年度事 理事より、昭和十六年度原務報告並に決算報 三月十四日前記理事會直後、評議員會を開

- (20)-

清交會 備入 金 市然益金 昭和十六年度決算報告 收入之部 七、一二二五五三 M,000-00 1,010.00 10次-00 三八四·五八 BOC-10 11-11:3

——大日本佛教青年會聯盟大會講演要旨——

覺

見直せ、 出直せ

が敬慕して居ります萬年青年であられる安藤理事長のもと に、全國の佛教育年の方々が一營に會せられまして、新し く全一佛教運動を展開せらるしこの記念すべき日に當りま 此度佛教維新全一佛教といふ大きな旗の下に、日頃私共

シーナツク、タチオヤツクスラクシ 唱あり、泰國留學生代表のアナン、 京音樂學校生徒五十餘名の佛教聖歌 拶、城多又兵衛氏の指揮にか」る東 辭を述べ橋田文相、泰國公復の挨 ヤ兩君及び正大の北村謙顺君、千代 聯盟安藤理事長主催者を代表して式 **遙拜、國歌容唱、默醇、佛教青年會** 『無碍の道』『いろは歌』の選弊台 言葉をよく再認識

選り再認識でごれ 再認識は何によ

最も光荣と存する いつの時代に於て 下に於ける我々國

ります。再出發は

是が問題である。如何に見るべきか、如何に行くべきか、 との問題が質に難かしい問題でありまして、それは所謂永 足であります。目で見て足で歩く。それは極めて分りきつ た平凡なことであります。併しどう見るか、どう歩くか、

體的に見るにはどうしても「見」ではいかん。「觀」です。 なす。物の深さ、物の價値と、物を本質的に見る。物を立 の奥に「觀」がある。「觀」の目は肉眼に對する心眼であり るは「見」であります。東京見物とか上方見物の「見」で りますから肉服だけのやうに溶へて居りますけれども、よ 遠に古く、永遠に新しい人生の理だと思います。 あります。「見」の目だけでは本常に見えない。もう一つそ つの意味があると思ふ。一つは目で見よといふ、最初の見 くまあ、あたたは注意して御覧なさいと言つた場合には二 そこで見ると言ひますと普通に目で以て物を見るのであ

六、帰選二千五百年の記念事業に職する件

八、シャム皇帝奉廻に闘する件 御殿楊樂市點にて賃行することに決定。實行の日時及び方法は 各職盟協議して賃行することに決定

七、夏朋大學開催の件

理事に一任。

九、際盟本部より地方佛教青年曾へ牌師派遣に関する件 金日本佛青聯盟として泰迎することに決定。 なるべく地方佛青會の負擔を握くして牌師議道に努むること 昭和六年四月三日午後七時—九時半、東京帝大佛青寶館

松浦霧鄉

臨時借入

Ŧ,

全日本佛青聯盟の行動綱領に関する件

對內的對外的對國際的の內容を規定し、その文案起草を五委員

に決定

편

第二回總合開催地に関する件

原則として各地聯盟陥落とすべきも準備の都合上、明年度だけ 主事の字當を豫算内に入れ聯盟の事業を發展せしめるとに決定 二、二十五歳孫酒法案に関する件 一、世界宗教平和會議に関する件

発日本佛青聯盟より代表者を一名選出武治することに決定

全日本佛教青年會聯盟第一回總會決議錄

その制定問題を理事に一任

鎌第に関する作

二、役員選擧に関する作 一、食助に腹する作

機長指命決定

原案可決

史料

全日本佛教青年會聯盟創立總會決議錄

三、宣言及び経領に関する件

空、佐藤秀順、武藤叟、彦坂登喜二、山名義順の七委員に委託。

昭和六年四月三日年翁拾時、東京僧大佛敦青年會館

宣言女可決發表。網領の起車を禁尾義郎、長谷川良信、字野闘

二、時日 昭和七年五月六日

全日本佛教青年會聯盟第二回總會決議錄

一、楊所 於東京市本鄉區本鄉三丁日東京帝大衛教青年台前

資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流 「編集復刻版

●龍谷大学アジア仏教文化研究叢書5

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

中西直樹(代表)・林 行夫・吉永進一・大澤広嗣「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

推薦

赤松徹眞·楠 淳證

◆第Ⅳ期

全日本仏教青年会連盟機関誌

『青年仏徒』 全2巻

体裁=B5判·上製·総782頁

ISBN 978-4-8350-8206-6

刊行=2018年2月

収録内容

*巻数は第Ⅰ期~第Ⅲ期から継続しています。

第8巻 『青年仏徒』全日本仏教青年会連盟、

1巻1号~3巻9号(昭和11年7月~13年11月)

第9巻 『青年仏徒』全日本仏教青年会連盟、

4巻1号~8巻2号(昭和14年1月~18年6月)

◆ 第 Ⅰ 期

年会大会紀要』(昭和10年)ほか収録洋仏青大会紀念号(昭和9年)、『第二回汎太平洋仏教青『兄弟』2巻2号 仏誕二千五百年紀奉祝・第二回汎太平『第一回汎太平洋仏教青年大会並会議紀要』(昭和6年)、

第Ⅱ期

定価=本体72、000円+税体裁=B5判・上製・総1、298頁南方仏教圏との交流 全3巻

ISBN 978-4-8350-7860-1

年)、『大東亜建設学徒大会紀要』(昭和18年)ほか収録昭和9年~19年)、『南方仏教青年会会報』1号(昭和16『海外仏教事情』1巻1号~10巻4号(国際仏教協会、

◆第Ⅲ期

ISBN 978-4-8350-7864-9 中国仏教との提携 全2巻中国仏教との提携 全2巻

年)を収録宗教事情』1号~10号(日華仏教研究会、昭和14年~15宗教事情』1号~10号(日華仏教研究会、昭和14年~15華仏教学会、昭和11年~12年)、『日華仏教』1巻1号~2巻1号(日昭和10年~12年)、『日華仏教』1巻1号~3巻10号(国際仏教通報局、『国際仏教通報』1巻1号~3巻10号(国際仏教通報局、『国際仏教通報』1巻1号~3巻10号(国際仏教通報局、『国際仏教通報』1巻1号~3巻10号(国際仏教通報局、『国際仏教通報』1巻1号~3巻10号(国際仏教通報局、『国際仏教通報』

不二出版

振替00160・2・94084 振替00160・2・94084